

# コヨシキリ

*Acrocephalus bistrigiceps*

ウグイス科・夏鳥



コヨシキリ

## 名前の由来

小さいヨシキリの意で、「葦切(ヨシキリ)」はヨシの茎を切り裂いて中の虫を食べるのでこう呼ばれた。漢字名：小葦切

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)13.5cm、翼を開いたときの長さ19cm。スズメよりも小さい。

体の上面はオリーブ茶褐色で、白い眉斑(眉毛の様な斑点)の上に黒い線がある。下面はうっすらと黄褐色がかかった白色。

声：繁殖期には低木の枝先や草の茎の上にとまり、「カカチ、チリリ、キョッキョッ」「ジョッピリリ、ジョッピリリ、ギョッキョキリキリ、チリリ」などと金属的で高い細かな声で連続的にさえずる。

地鳴き(さえずりではない普通の鳴き方)では「ジュジュ」「ジジジ」などと鳴く。

類似種と区別点：シマセンニュウ、マキノセンニュウ、オオヨシキリ。

外見は互いに似ているが、さえずりで区別できる。シマセンニュウは「チッチッ、チュルチュルチュル」などと早口にさえずる。草むらから垂直に舞い上がってさえずることもある。

マキノセンニュウは「チリリリリ」と聞かれる高い細かな声でさえずる。

オオヨシキリは「ギョシヨシ、ギョギョシ、ケスケス」というような、少し濁った声でさえずる。



コヨシキリ。白い眉斑の上に黒い線がある



シマセンニュウ。さえずるとき舞い上がることも

## 生息環境・分布

水辺の丈の高い草原に生息。十勝では夏鳥。

分布：中国東北部、モンゴル、ウスリー地方、朝鮮半島で繁殖。冬は東南アジアに渡る。

日本では本州、九州の主に標高の高い草原で繁殖。冬は東南アジアに渡る。

北海道には5月下旬から6月上旬に渡来する。平地の草原でふつうに繁殖する。

十勝地方には5月下旬から6月上旬に渡来する。川原のヨシ原などに多数繁殖する。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期						繁殖						
東南アジア(越冬期)												

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシタカ

## 食性・他生物との関わり

昆虫を食べる。

茎から茎へと移動しながら細くとがったくちばしで昆虫を捕らえる。

ヒナにはコオロギ類、アワヨトウの幼虫、バッタ類、ガの成虫、クモ類など草原の昆虫を与えることが多いという。カッコウの托卵対象になる。(→興味深い話の項参照)

捕食者は猛禽類など。

## 繁殖生態

繁殖期は5月中旬から8月、一夫一妻の番が多いが、まれに一夫多妻の可能性もあるという(木内、1970)。

オスの方がメスより早く繁殖地に渡来し、ヨシ原になわばりを作ると、丈の高い草の上部にとまってさえずる。

巣作りは6月初旬から始まり、ヨモギなど丈の高くなる草の茎やヤナギの幼木など低木の枝に、縫い付けるようにコップ形(ないしはお椀型)の巣を作る。巣材としてはイネ科の枯れ葉を主な材料として用い、産座には羽毛を利用するという。

巣作りはオスメス共同で行うが、巣材の運搬回数はメスの方がオスの倍以上だという(木内、1970)。

4~6個産卵し、オスメス交代で卵を抱くが、メスが巣にいる時間が約90%と圧倒的に多いという(木内、1970)。

13~14日でヒナがかえる。ヒナへの給餌はオスメス共同で行う。ヒナを抱く期間にはオスメスほぼ同じ割合で給餌す

るが、全体的にはメスの方が約70%を占めるという。ヒナは13~14日で巣立つ。巣立ち後も約2週間はなわばりの近くで親に養われるという。



さえずるココシキリ

## 興味深い話

■標識調査で、7年10ヶ月の生存が確認されている。

■アオジ、モズなどと共に、カッコウの托卵相手である。托卵とはカッコウの仲間が自分で巣作りをせずに、他の鳥の巣に卵を産み付け、抱卵や育雛をその仮親にさせてしまうこと。早めに生まれたカッコウのヒナは、仮親の卵を全て巣の外に落としてしまう。

■オスのさえずりはメスが繁殖地に来る前から始まるが、メスがなわばり内に姿を見せるとより盛んになるという。一方つがいができるとさえずりは極端に少なくなるという。

■北海道のヨシ原ではココシキリが優勢でオオヨシキリはその周辺で見られ、本州ではその関係が逆転しているのだ

という。



カッコウ。ココシキリなどに托卵する

## 配慮事項

湿地と周辺の草原、川原の草原や堤防の草地などでも繁殖を行っている。

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「野鳥ボックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997  
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987  
「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所 1996  
「日本の野鳥図鑑1 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995

木内忠一 (1970) コヨシキリ. 長野県上水内郡誌自然篇、動物. 上水内郡誌, pp. 708-711. 上水内郡誌編集会.

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ